

2009年度

科目名	医療情報薬学Ⅱ				
担当教員	小西 廣己、上島 秀樹、初田 泰敏				
配当	薬科4			コード	52660
開期	後期	講時	金曜日2限	単位数	2
授業テーマ	【選択】 医薬品情報の評価と患者情報の活用法を学ぶ。				
目的と概要	薬物治療に必要な情報を医療現場に還元するために、医療薬学に関連する知見を適切に評価する基礎的知識を修得し、医薬品情報や患者から得られる情報の収集、評価、加工などをおとして、医療チームの一員として薬物療法に寄与できる薬剤師の養成を目的とする。				
成績評価法	試験の成績、平常点を総合的に評価する。				
テキスト	スタンダード薬学シリーズ6「薬と疾病Ⅲ 薬物治療(2)および薬物治療に役立つ情報」/日本薬学会編/東京化学同人				
参考書	医薬品情報学/山崎幹夫監修/東京大学出版会 医薬品情報学—基礎・評価・応用—/折井孝夫編/南山堂				
履修に当たっての注意・助言	補助教員:小川雅史				
講義計画					
回数	授業形態	授業内容	到達目標(SBO)	コア対応番号	学習領域
1	講義	根拠のある医療(EBM)と医薬品情報	1. EBMの基本概念を説明できる。	C15 (1)	知識
			2. EBMの有用性について説明できる。	C15 (1)	知識
2	講義	EBMの実践と意義	1. EBMの実践プロセスを概説できる。	C15 (1)	知識
			2. 医薬品の作用および副作用の調査における疫学的手法の有用性を概説できる。	C11 (2)	知識
3	講義	臨床研究法の特徴	1. ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究法などの、長所と短所を概説できる。	C15 (1)	知識
			2. オッズ比、相対危険度、必要治療数、などの臨床適用上の効果指標について説明できる。	C15 (1)	知識
4	講義	研究結果の評価と解析(1)	1. 真のエンドポイントと代用エンドポイントの違いを説明できる。	C15 (1)	知識
			2. メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。	C15 (1)	知識
5	講義	研究結果の評価と解析(2)	1. オッズ比、相対危険度、必要治療数、などの臨床適用上の効果指標について説明できる。	C15 (1)	知識
			2. オッズ比を計算できる。	C11 (2)	技能
6	講義	研究結果の評価と解析(3)	1. 疫学データを解釈する上での注意点を列挙できる。	C11 (2)	知識
7	講義	患者情報の体系化	1. 問題志向型システム(POS)の意義と概要を説明できる。	C15 (2)	知識
8	講義	患者情報の収集	1. 薬歴、診療録、看護記録などから患者基本情報を収集できる。	C15 (2)	知識・技能
			2. 患者、介護者からの適切なインタビューから患者基本情報を収集できる。	C15 (2)	知識・技能
9	講義	患者情報の評価と適用	1. 得られた患者情報から医薬品の効果および副作用などを評価し、対処法を提案する。	C15 (2)	知識・技能

10	講義	患者情報の保管と管理	1. SOAPなどの形式で患者記録が作成できる。	C15 (2)	知識・技能
11	講義	患者情報の取扱いに関する義務と責任	1. チーム医療において、患者情報を共有化することの重要性を感じとる。	C15 (2)	態度
			2. 患者情報の取扱いにおいて守秘義務を遵守し、管理の重要性を説明できる。	C15 (2)	知識・態度
12	講義	医薬品情報の活用(1)	1. 医薬品の採用、選択に当たって検討すべき項目を列挙できる。	C15 (1)	知識
			2. 後発医薬品の評価および採用に際しての留意点を説明できる。	独自	知識
13	講義・演習	医薬品情報の活用(2)	1. 医薬品に関する論文を評価、要約し、臨床上の問題を解決するために必要な情報を提示できる。	C15 (1)	知識・技能
14	講義・演習	医薬品情報および患者情報の臨床応用	1. 医薬品情報および患者から得られた情報から服薬指導やクリニカルパスなどへの応用を考えることができる。	独自	知識・技能
15	演習	総括とまとめ	1. 医薬品情報を適切に収集、評価、加工ができる。	独自	知識
			2. 患者から適切に情報を収集し、それを活用することができる。	独自	知識

授業方法

一般目標	学習方法	場所	教員数(補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
C15 (1) C15 (2) C11 (2)	講義	講義室	3	配布資料(プリントなど) パワーポイント	90x12
C15 (2)	講義 演習	講義室	3(1)	配布資料(プリントなど) パワーポイント	90x3